



クローズアップ CLOSE UP

命をつなぐ行動を学ぶ

2月22日、小5から中学生までを対象にジュニア救命トライアルを初開催しました。心肺蘇生法やAEDの使い方、119番通報、応急手当などを学習し、最後にチームで想定訓練に挑戦。学習の成果を発揮し、力を合わせて命をつなぐ行動を実践しました。



気づきに出会う企画展

アーツ前橋で企画展「はじまりの感覚」を1月25日から3月23日まで開催しました。見るだけでなく、聞く、触るなど、さまざまな感覚で楽しめる作品のほか、靴を脱いで、座ったり寝転んだりしながら鑑賞できる作品も展示。訪れた人たちはさまざまな作品を楽しみました。



市議会正副議長が決定

市議会の第1回定例会を3月4日から28日まで開催。初日には正副議長を決める投票を実施し、議長に富田公隆議員（写真左）、副議長に藤江彰議員（写真右）が選出されました。市議会ホームページでは、会議の様子を視聴できます。



CITY WATCHING

いきいき
まえばし人

在宅緩和ケア医
萬田 緑平さん・60歳
総社町植野

人生の最終章を共に楽しく

4月19日(土)から前橋シネマハウスで、萬田さんの活動と在宅緩和ケアを選択した家族の物語を描いた映画「ハッピー☆エンド」を上映。

17年間、外科医を勤め、現在はがんになつわる痛みや辛さを和らげる在宅緩和ケア医として活動している。

「患者さんのほとんどは、良い人生だったと言葉を残し、幸せそうに亡くなっていきます」と萬田さんは語る。

外科医の頃は、心臓マッサージや人工呼吸などの延命治療がされる患者の様子を見てきた萬田さん。勤務1年目からその治療が患者にとって辛いのではないかと感じ、2年目からは本人や家族などに延命治療をしないという

了承を得たうえで、独自の看取り路線を築いていた。

「がん患者は死ぬことが辛いものではありません。治療で家に帰れず、好きなように生活できないことが辛いのです」と萬田さん。

萬田さんの患者は好きなように過ごすことを基本とし、亡くなる前には、家族へ感謝の言葉を伝えてもらうようにしている。患者や家族からの、先生に会えて良かった。ありがとう、という言葉が萬田さんのやりがいにつながっている。

「上映する映画は、あまり知られていない世界だと思うので、たくさんの方に見てほしいです」と語る萬田さんの今後にも注目したい。映画について詳しくは本紙27ページをご覧ください。



問 農政課
☎ 027-898-5841



経て令和元年10月

旬な農産物や生産者を紹介するこのコーナー。今回は新たに赤城の恵ブランド認証受証者となった母屋たくみを紹介します。

「赤城の恵」は、前橋産農林水産物やそれらを加工したもののうち、審査で選ばれた本市がお勧めする逸品。2月の審査で母屋たくみのイチゴが新たに認証されました。

森田匠さんがイチゴ農家を志すきっかけとなったのは、親が買ってきたイチゴ。それまでイチゴが嫌いだった匠さん。たまたま口にしましたそのイチゴのおいしさに感動し、自分も作りたいという思いに駆られました。これまで農業に携わったことのない匠さんの新たな

夢への挑戦を応援したのは妻の優紀さん。匠さんは感動したイチゴ農家で1年半の修業を経て令和元年10月

「いただきますもので母屋たくみのイチゴを食べた人がおいしかったからと買いに来てくれます。口コミでお客様が増えていくことが一番うれしいです」と匠さん。今シーズンには耕作面積を2倍に増やしましたが、それでも間に合わないくらい多くの注文が入ります。ふると納税返礼品でもリピーターが多く、そのおいしさで市外のファンも着実に増やしています。

今後は全国への販路拡大を目指し、さらにおいしいイチゴ作りを探究していきます。母屋たくみの最新情報は二次元コードをご覧ください。



左から優紀さん、彩生ちゃん、匠さん